

第2回

京都市会海外行政調査審査会記録 【ロードプライシング】

平成24年10月23日 開会

京都市会

第2回 京都市会海外行政調査審査会記録

(ロードプライシング)

○平成24年10月23日(火)

○市会運営委員会室

○出席委員(9名)

会 長 加藤 盛司 議 員

副 会 長 井坂 博文 議 員

副 会 長 曾我 修 議 員

委 員 寺田 一博 議 員

委 員 加藤 あい 議 員

委 員 山本ひろふみ 議 員

委 員 佐々木たかし 議 員

委 員 清水ゆう子 議 員

委 員 中川 大 教 授

○欠席委員

なし

○調査計画提案者

隠塚 功 議員

下村あきら 議員

○審査内容

ロードプライシングに関する海外先進事例の取組及び総合交通体系におけるロードプライシングの位置付け調査に係る審査

○配布資料

海外行政調査計画書

○要求資料

なし

○特記事項

なし

[午前9時32分 開会]

会長(加藤盛司)

おはようございます。

ただ今から、ロードプライシングに関する海外先進事例の取組調査に係る審査会を

開会いたします。

本日は、前回の審査会での意見を踏まえた調査計画の修正案が提出されましたので、それについて、審査を行うことといたします。

前回の審査において、調査内容について、ロードプライシングだけでなく交通政策全般についても調査できるような内容とすべき、調査行程の中の交通機関について、庸車だけでなく、地下鉄やバスに乗るべき、調査都市について、ソウルよりも他の都市に変更すべきなどの意見があり、それらの意見を踏まえ、改めて調査計画書を提出いただくこととしておりました。お手元に調査計画の修正案を配布しておきました。

それでは、提案者から調査計画の修正案について説明を聞くことといたします。

隠塚議員。

提案者(隠塚功)

おはようございます。早朝からお集まりをいただきましてありがとうございます。今、会長の方からお話がありましたように、前回のこの審査会におきまして御指摘いただいた点につきまして検討し、そして修正をしたものを本日提出させていただきました。御覧いただきまして、基本的にはロードプライシングということで行くということをお理解いただいておりますので、それを交通戦略の中の一つの事業であるということをしつかりと学べる内容にすることでしたので、その各都市の交通戦略についても勉強させていただくというように今考えております。ですから、簡単な記述ですけども、調査テーマの中で言うと、5番目辺りにロードプライシングを組み込んだ各都市の総合交通体系を学ぶんだということを具体的には書かしております。実際に、行かせていただく都

市ということで、今回はシンガポールとそしてロンドンとミラノということにさせていただきます。シンガポール、こちらにつきましても、内容を変えてないわけですが、ただ実際にシンガポール、こちら公共交通を利用するためのカードが発展しているようで、イージー・リンク・カードというのがあるようですので、そういったものを利用する、それで、その利便性なんか実際に体感するというのを予定の中に入れております。また、ロンドンについても同様にですね、オイスターカードというのがあって、これについては、日本でも購入できるということでもありますので、そういうような点も事前からしっかりと調査したうえで、そして向こうでの利用についてはバス、そして地下鉄、いずれもしっかりと乗せていただく中で、このロードプライシングのゲート、そういうところからも確認することなんかも考えていきたいという風に思っております。ミラノを入れさせていただきましたのは、ロードプライシングのタイプとしては、コードンプライシングということで、シンガポールと同じではあるんですが、このシンガポールとちょっと違うのは閉鎖された都市ではないという状況の中で、そして観光に対しての意識が大変高いということから、こうした取組がどのようにいかされているのかというのを学びやすいんじゃないかと。ソウルの単にトンネルの中を通過すると、それに対しての料金制度というものから、改めて形としては一緒ですけども、目的が違っているというところから、このミラノ市の方を選定させていただきました。いずれもロードプライシングという制度だけでなく、そこを使ってその料金で、例えば、公共交通の利便性を高める、ロンドンなんかでは、はっきりとそういう形で 24 時間バスを走ら

せるようなものに支援をするということにもなっているようですので、その辺について、各々の都市にしっかりと学ばせていただきたいという風に思っております。というような内容にしておることから、行程の方も変わっておりまして、初日関空からシンガポールへ行かせていただくということにしています。シンガポール、今の予定では、一旦関空に戻ってきたうえで、関空から改めてロンドン、そしてミラノということでの訪問ということで関空をトランジットに使う予定に今なっています。こちらについては、全部がビジネスクラスで行くということではなくですね、シンガポール、これは片道 5、6 時間ということでもありますので、こちらについては、エコノミーで行ったうえで、先ほど申し上げましたように、大変ハードな形での乗継ぎでの関空へ行って関空からのフライト便、ここについてはビジネスをとということでの予定にさせていただきます。そういうところが大きくは変わっているということでごさいます。あと詳細はこれから更に詰めていきたいという風に思っておりますが、今申し上げた内容で今後計画を進めさせていただきますという風に思っております。以上でございます。

会長（加藤盛司）

ありがとうございました。

ただ今、前回の審査会で出た 3 点の意見について、修正されて再度計画案を出された、ということですので、その計画案について何か御意見とか御質問のある方どうぞ。

井坂副会長。

副会長（井坂博文）

私の意見というよりも、前回に引き続きになりますけど、中川先生に来ていただい

て、ロードプライシングだけでなく世界から一番遅れている日本の都市交通の体系との比較で、全般的に見た方がいいんじゃないかという意見もありましたので、今回の修正提案に対し、中川先生の御意見はどうでしょう。

会長（加藤盛司）

ということですので、中川委員。

委員（中川大）

はい、ありがとうございます。

前回、私の方からも提案させていただいたわけですが、そういう方向ですね、また改めてお作りいただいているという風に理解をしております。やはり是非このロードプライシングを組み込んだ核としての総合交通体系とこういう書き方をしてもらっています。これは是非しっかりと見てきていただくとありがたいという風に思っています。参考までにヨーロッパ2つになりますとですね、ミラノにしても、そんなに費用は上がらないだろうと思って、ちょっと示唆もさせていただきましたが、それは大体そういう風に理解をしてよろしいでしょうか。都市を変えたことによって、費用がかなり上がっているというようなことはないという風に理解をしてよろしいのでしょうか。

会長（加藤盛司）

隠塚議員。

提案者（隠塚功）

あくまでも概算という状況ではございますが、現時点で確認したところ、ほとんど値段的には変わっていないということで確認をしております。

会長（加藤盛司）

中川委員。

委員（中川大）

私がコメントすることでもないかもしれませんが、是非向こうの交通を見るためにはやっぱり前回も申し上げましたように、自分で回っていただくということがすごく重要だと思いますので、そういう意味では、例えば空港との往復などもですね、自動車の側と公共交通の側と両方見ることも大事ですので、往復専用車というのではなくて、ロンドンなどは公共交通、鉄道でつながってますし、シンガポールもつながってますね、そういう意味では片方は自動車で行かれても、片方は公共交通で行かれるとかですね、そういった形で、空港アクセスなどの公共交通も体験していただくのもいいのではないかなという風に予定を見て思いました。経費のことはあれじゃないかもしれないけども、気になりますのは、添乗員費用というのが全体額の10%以上になってますけれども、我々の感覚から言って、ちょっと大き過ぎるのではないのかなというようなかんじも若干いたします。要するに前に申し上げたことと若干関係しますけれども、添乗員の方にすべて用意をさせていただいて、こちらへどうぞこちらへどうぞ、という、こういうようなやり方よりも自分の方の方がいいと思いますので、添乗員の方は最低限の仕事をしていただくという形の方がいいのではないかなというような感触としては感じました。全体としては、非常に積極的に、また事前にかなりよくお調べのようでございますので、大変結構ではないかなと思います。またあと少し参考までにロンドンとシンガポール、3都市ですけども、私行って見てきた部分などもありま

すので、もし事前に何かそういうことで行かれる皆さんとディスカッションをしたりするようなことでもしてもいいかなとも思いますので、もし必要ならば言っていただいたらと思います。私、シンガポールはだいぶ前しか行ったことがないんで、20年くらい経ってるかもしれませんが、ロンドンとミラノには最近行ってまいりましたので、そういう情報交換などもしてもいいかもしれないなと思います。

会長（加藤盛司）

添乗員の件は。

提案者（隠塚功）

ありがとうございました。最後にお申し出いただきました件は、是非改めて勉強の機会を作らせていただきまして、それを我々が学ぶ最初の基礎知識として持ったうえで、その都市に行かせていただければ大変ありがたいなと思います。よろしく願いいたします。また添乗員のことについては、確かにおっしゃられるとおりでございまして、今回、最初の案ということで出しているわけですが、これから実際には業者を選定するという段階にも入ってまいりますので、そこにおいては、今先生から御提案いただいたこと、具体的にお示しをして、それで添乗員がどういう形に行き着くのかということも御提案いただく中で判断できるようにしていきたいという風に思います。

会長（加藤盛司）

はい、ではほかに何か御意見御質問あればどうぞ。井坂副会長どうです、今の中川委員の御意見を受けて。

井坂副会長。

副会長（井坂博文）

あの先生おっしゃられたように特に総合交通体系全体で先生の経験を是非活かして事前にレクチャーもいただいたうえで、参加される皆さんの自らの学習で深めて、より問題意識を鮮明にしていくということが、この行政視察を効果的にすることになると思うんで、是非そういう形は、これからも継承検討する値打ちもあることだと思うんで、それはしっかりやっていただいて、先生の色んな知識や経験などを反映させていただきたいというのと、確かに添乗員の費用、指摘されると、大きいですね、これ。確かもう一方の脱原発のドイツ方面の方は、かなり寺田さんの方で事前に様々な手段を含めて検討されるという風に聞いてたんで、手元にその比較資料がないんですけど、やっぱり今の海外行政視察に対する色んな意見などもあることですので、こういう自ら企画をして臨むということになっているわけなんで、添乗員の仕事をできるだけ軽くして、参加される視察団のところで色々工夫ができるようにしていただくというのは、貴重な意見だと思いますので、私も賛成です。

会長（加藤盛司）

ほかに御意見御質問。

ではございませんようですので、質疑応答はこの程度にとどめさせていただき、本審査会として、修正された計画についての可否をお諮りしたいと思います。先ほど中川委員から何点かの再修正というか、それについては、これからの計画の中で調整できるという風に思いますので、今回出されたこの調査計画について、本審査会として了承することで御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

会長（加藤盛司）

それでは、本審査会として承認することといたします。

清水委員。

委員（清水ゆう子）

一点事務局を含めて確認をさせていただきたいのですが、先日の会長のお話にも費用面のことをもう少しということもありましたし、市長総括質疑でも市長も含めて京都市の財政難の話が各会派からもありましたので、今、中川先生の方ももう少し添乗員の費用も削減できるのかなというアドバイスいただけてますが、今、シンガポールの部分に関しては、エコノミーで、それ以外はビジネスでという風な御提案もあつたんですが、行く行かないというだけでなく、行く中にも色々な方法があると思いますので、例えばすべてをエコノミーにする方法もありますし、政務調査費とか実費とか色々な方法があると思いますので、費用面に関してもう一度、どういった方法があるかというのを事務局にどれくらい削減ができるかという部分を含めて一度御提示いただければいいかなと思うのですがいかがでしょうか。

会長（加藤盛司）

実はこの審査会で我々に与えられているのは、計画書について妥当であるかどうか、中身がどうなのかということで、今、清水ゆう子委員がおっしゃった点については、この本審査会で直接議論する、諮る内容ではないわけなんです。ただそういう御意見については、先ほどの中川先生等の話もあるんで、改めてちょっと議論をして、そして今、清水委員のおっしゃったようなことももし事務局に調べさすと言うのであれば、調べさした中で議論したいと思うんですけ

ども、そういうことでよろしいですか。

委員（清水ゆう子）

今この概算いただいているんですが、やはり実際どうなるかという部分を含めて検討したいなという部分があるので、ちょっとお手数をおかけしますが、事務局の方で一度御提示いただければと思います。

会長（加藤盛司）

そういうことですので。

寺田委員。

委員（寺田一博）

国内の視察でグリーンに乗られている清水議員が今こういう話をされるというのは、何か意図があるのかなと思うんですけど、やはり金額の面ですね、できるだけ私も今視察先の方に交渉して安くなるようにしてるんですけども、この間も新聞でですね、議員の行政視察がいくら掛かると載って、かなり私も言われました。知事ですね、エディンバラ行かはるときは、一切載らずに、こういうときに載るという形でやはり市民にとってですね、関心が金額にばかりにいて、中川先生なりがおっしゃっていただいている、なぜそういう視察をするのかとか、私とこの提案であれば、例えば国内視察であれば、ほとんどが交通費と宿泊費にもかかわらず、今回のエネルギーの視察なんかは、かなりの部分を現地の有識者なり、御提案いただいた市民の方との意見交換のコストもですね、上げたりしてますんで、そういった意味でコストの見直し大いに結構やと思いますけども今回の海外行政視察の意義をね、やはりもう少し我々としてもしっかりと押し出すようにしないと、市民の方がですね、お金のことばかり関心がいてですね、実際に議会が何を得てく

るかとか何を調査するのかということを目を向けてくれないということもありますので、やはり審査会としましてもそういったことも同時に並行してしっかりと議論するなり、市民に対する広報っていうんですかね、そういったこともする必要があると思います。

会長（加藤盛司）

冒頭申しましたように、当然この審査会については、その出された計画の中身について、議論を中心にしてきて、それについては、皆さん方全会一致で必要であるという御同意をいただいたという風に思っているわけなんです。そのうえで、清水委員からそういう発言がございましたので、今、寺田委員の国内はどうなんかということも含めてやっぱりこの審査会での議論の私は中身とは若干違うと思いますので、どうするかも含めて別の場で、ちょっと色々御意見をいただきたいと思うんですけれども、よろしいでしょうか。

井坂副会長。

副会長（井坂博文）

理屈はそのとおりだと思うんですよ。だから添乗員費用の件も 75 万円というところの切り口からいくのか、それとも寺田委員からあったように、自分たちで調べ、現地で色々有識者も聞くし、その市民団体の意見も聞くっていうことで、添乗員に從來使ってた必要性をどう考えるのか、という切り口でいくのか、っていうことでいうと、後者の方はこの審査会のテーマだと私は思うんですよ。もうこれで確認したとしても、引き続き、チームの中で検討していただいて、色んな情報とかなんかも調べたうえで、ここをより目的にするような形で変更していただくというのは、今後も必

要なことだと思うんですよ。そのうえで、金額的な問題っていうのは、結局どこで検討するということになるんですかね。

会長（加藤盛司）

私自身は、6 派の代表者会議で議論してはどうかかなと思ってるんですけど。

井坂副会長。

副会長（井坂博文）

そしたら、そういうところで検討していただいて、確かに寺田委員がおっしゃったように海外と国内で同じようなベースで議論するのであれば、当然国内の視察がなぜグリーン車なのかという話が出てくると思うんですよ。だけど、さっき寺田委員がおっしゃった清水委員がグリーン車を使ってるから、そういうところから意見出てくるのはいかがなものか、という言い方は、ちょっと感情的だと思うんで、それはよくないと思うんで。議員みんながそういう問題として考えるのであれば、それは必要なことだという風に思います。

会長（加藤盛司）

清水委員。

委員（清水ゆう子）

今、海外のもちろん、私も昨年今年グリーン車乗せていただいて、視察行ってますので、今、海外の部分について、言わせていただいたのは、目の前にその海外行政視察に行くというのがあるので、喫緊という意味でまず海外について考えたいという提案をしたままであって、もちろん海外国内という部分で、しっかりと今後考えていくという必要があるんですが、目の前にという意味で海外についてまず考えていく方がいいのかなという提案でしたので、そこだ

け御理解いただければと思います。

会 長 加 藤 盛 司

会長（加藤盛司）

寺田委員。

委員（寺田一博）

私がかねてからね、国内とか海外とか差別なくやっぱり議論するべきだと言っている中で、議会というのはどうしても国内なら別にそんなに議論しなくて、海外の場合だけ何か非常に厳しいですね、そういったことをするんでなくて、国内海外問わず同じ基準で議論すべきだし、この場でそういうことを議論するよりもむしろその視察の意義とか今言いましたように、今回の国内でないような視察をやっていく意義についての議論についてしっかりと深めていかないと、結局メディアとかに載るのはお金の話ばかりで本当の視察の意義みたいなのは載らずに行ってしまうのが私は、非常にどうかと思いますんで、そういった意味では、こんな議論は今加藤会長おっしゃったように6派協議でできるんですから、この審査会では、むしろ視察の意義みたいなものについて、しっかりと私は議論したいという意味です。

会長（加藤盛司）

マスコミの方もしっかり聞いておられるんで、その辺の意義については、しっかり書いていただけるものと思う前提のうえで、ただ今の清水ゆう子委員の提案について、先ほど申しましたように、6派で協議を致したいと思いますので、御了承願いたいと思います。では、本審査会を終了いたします。

[午前9時50分 散会]